

琉球弧の在来家畜とソーシャルキャピタル

マス塾新聞

高田勝先生講義

島マス記念塾
事務局担当者
無責任編集
Tel.937-3385
MASU@OKICITY
SHAKYO.COM



★家畜はおいしく、いっぱい食べられるもの、がいて思っていたけど、昔の沖縄は神事を目的としていて、今とは考えが違っていた。人に驚かすことを「人をとるか」「経済をとるか」考えさせられた。琉球弧には、こんなに様々な種類の動物がいたことにおどろきました。動物はとても身近な存在でソーシャルキャピタルを築いていたんだと思います。少しづつ希薄になりつつあるコミュニケーションや場を大切にしたいと思

いと思います。
(浜崎こずえ)
★沖縄には思っていた以上に在来動物がかなり多いのにビックリしました。そして、ソーシャルキャピタルが自然に体に染みついてきたのもビックリでした。
(仲本忍)
★普段職場で見ている在来家畜が、今日の講義を聞いて改めて見て学ぼうと思いました。世界を視野に入れた時、沖縄の存在がいかに大きいかわたし事学べて良かったです。
(嘉数裕美子)



★「お互いに同じ方向性で、互いに考えて議論していく。すると、つながりが深まり、信頼が生まれる」まさに、島マス塾のあり方そのものであるという事に気付かせていただきました。ありがとうございました!!
(宮城小百合)
★琉球Ⅱ沖縄が奇跡の島と呼ばれていることを初めて知って、また、その理由が本当にすごいなと思えました。在来家畜は、経済的損得でなく、文化的に合わせて体型も習性も出来上がっていること知りました。(前田彩音)
★在来家畜を通して場をつくり、コミュニティの絆を深める役割になっている事を学び、家畜をこれから違った角度から



